

薬剤師の業務及び職場環境に関する意識と現状

○森元 忠幸^{1,2}, 永田 信雄², 田原 由美子², 濱邊 和歌子¹, 徳山 尚吾¹(¹神戸学院大学薬学部臨床薬学研究室, ²ネグジット総研)

【目的】医療費削減がいわれ久しく、その大きな政策のひとつとして後発品の使用促進がある。後発品に関する患者への説明及び投薬は薬剤師の大きな役割として期待が寄せられている。そんな中薬剤師は医療従事者として、また社会人として日々どのような意識で業務に従事しているのかモチベーションとリーダーシップ（組織）の2つのテーマに焦点をあて薬剤師の意識を調査した。

【方法】アンケートの対象はネグジット総研の薬剤師インターネット調査会員4000名に対し調査依頼し、2008年9月8日～12日アンケートサイトを公開し募集した。結果、薬局薬剤師は411名、病院薬剤師126名から回答を得ることができた。

【結果】モチベーション編では自分が大きな責任を担っていると感じている（41%）、自分の仕事が社会にとって意味のあるもの（34%）と比較的高い結果であった。しかしながらリーダーシップ編では上司が明快なビジョンを示しているかについて、そう感じていない（50%）、上司が全社の状況や通達事項を的確に伝えているか、あまりそう感じていない（22%）と上司に対する評価は厳しくまた組織として業務に従事しているという感覚は一般企業と比較して薄い結果であったと言える。

【考察】薬剤師は医療従事者として大きな責任を感じ日々職務にあたっていることがわかった。しかしながら組織として見ると属しているリーダー（上司）に対する評価は低く、また会社方針を理解、共鳴しながら従事しているとは言えない結果になった。